

2019 年 12 月 5 日

北海道科学大学同窓会 雪嶺会
会長 武井 久 様

第 52 回稲峰祭 機械工学科展示
統括責任者 機能加工研究室 4 年 森山 純平

大学祭における学科展示開催報告書

表題の件につき下記の通り、ご報告いたします。

記

1. 開催概要

- (1) 開催地 : 北海道科学大学 F 棟・G 棟・R3 棟
- (2) 開催日時 : 2019 年 9 月 28 日・29 日 10:00~15:00 (2 日間開催)
- (3) 開催目的 : 地域の皆様や高校生及び将来の人材となりうる小・中学生にモノづく
の楽しさを伝えると共に本学機械工学科の魅力を知ってもらう
- (4) 開催結果 : 2 日間累計来場者数 780 名

2. 開催詳細

(1) 展示計画

日本機械学会北海道支部様より『メカライフの世界展』開催依頼があり、それと合わせて本学機械工学科の魅力を多くの方に伝えるために本学科の学問を応用した展示や使用施設の紹介および学内スタンプラリー開催を計画した。それらを実施するため本学科に所属する学生から有志募り運営スタッフとして事前準備を行った。

また本学広報課に大学公式 Twitter での告知を依頼するとともに、本学電気電子工学科の木村尚仁教授が主催となって開催予定である電気電子工学科展『e×e ラボ』とスタンプラリーを共同開催することで相乗効果を図った。

(2) 展示内容

- ① G 棟 2 階 G205 教室 日本機械学会北海道支部 『メカライフの世界展』
ペルチェ素子・風の力で動くペルチェカー・ウインドカーの展示および有線・無線で操縦できるカニ型ロボットの体験
- ② F 棟 1 階 コミュニケーションブース ストロー紙飛行機作製体験
流体力学を応用しストロー・紙を用いた特殊な形状の紙飛行機作製および飛行体験
- ③ R3 棟 NC 旋盤・5 軸マシニングセンタの体験・見学会
NC 旋盤・CAD/CAM ソフトを用いた円柱の切削体験および 5 軸マシニングセンタの実加工見学
- ④ F 棟・G 棟・R3 棟 『学内スタンプラリー』
機械工学科展各会場と電気電子工学科展会場にスタンプ台を設置し集めたスタンプに応じてレーザーカッターで作製した特製ガオーくんコースターや 3D プリンターで作製した恐竜プラモデルを景品として配布

(3) 事前準備

2019 年 6 月頃より機械工学科在籍の学生を対象に展示スタッフの募集や展示内容およびスタンプラリー景品の思案を開始、8 月上旬から 9 月下旬の夏休み期間を利用してスタンプラリーの景品やスタンプの作製および同時開催予定のメカライフの世界展の展示物の作製、機械工学科の学問を応用した珍しい形の紙飛行機キットの作製を行った。

(4) 開催当日の様子

1 日目は朝から晴天に恵まれ、2 日目は午前のみ雨であったがメカライフの世界展、ストロー紙飛行機作製・飛行体験、NC 旋盤・5 軸マシニングセンタ体験・見学会ともに子供さんからご年配の方まで幅広い年齢層の方にご来場いただき、またスタンプラリーも好評で子供さんからご年配の方まで多くの方に参加いただいた。

電気電子工学科展についてもスタンプラリーの効果は絶大で F 棟 3 階という立地であるにもかかわらず過去最高来場者数の 257 名を記録した。



図 1 5 軸マシニングセンタ体験



図 2 紙飛行機作製体験



図 3 メカライフの世界展の様子①



図 4 メカライフの世界展の様子②



図 5 当日配布景品およびスタンプ外観

スタンプラリー帳	
6階1号の会館前 PR団体ブース前	6階2号の会館前 メカライフの世界展
F棟1階 ストロー紙飛行機体験	F棟3階F314実験室 e×eラボ
83階 機械工作工場	合計 個 3個以上で景品Get!! 景品引換 □ 引換場所: F棟1階 ※7ページ見取図参照

図 6 スタンプ押印イメージ

(5) 改善点

機械工学科展自体が初開催ということもあり、計画・準備に遅延や不備が多くみられた。特に運営スタッフの募集については6・7月頃から募集を行った結果20～30名の方に参加いただいたが人手不足になる場面があったので4月などもっと早い段階から募集を行い50名前後のスタッフを集めるべきであった。

スタンプラリー景品のうちコースターも好評であったが特に恐竜プラモデルがお子様に人気で予定個数をすぐに配布してしまったため準備個数を増やすと共に景品の種類を増やし交換者の分散を図りたい。

運営スタッフに余裕がなく本年は実現しなかったが多くのスタッフ集めることができたならば学科紹介ツアー等の実施も検討したい。

本年はスタンプラリー景品のコースター作製や予算管理、人員配置、広報課・電気電子工学科との調整、学生・教員間の調整等をすべて統括責任者1人で行っていたため次年度以降開催するのであれば複数名からなる実行委員会を立ち上げた上で分担することで個人の負担を減らすと共に幅広い知見から新たなアイデアの創造が可能になるのではないかとと思われる。

3. 来年以降の予定

本年の機械工学科展にて作製したスタンプ等備品類の管理、景品の作製ノウハウ、他学科・他部署との連携についての引き継ぎを行うと共に次年度に向けて運営スタッフの募集を開始することや新たな景品の思案を行っていく予定である。

4. あとがき

今回の第52回稲峰祭では雪嶺会様からは資金面、電気電子工学科木村尚仁教授および広報課様には展示・告知面、本学科学生・教員の皆様には展示・来場者対応等の面でご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。私1人では到底なしえなかったことですが各方面の方々からのご支援を賜りましたことで実現することができました。私は本年で卒業し大学を去りますが次年度以降機械工学科展が続いていくことを切に願っております。最後にご支援くださった皆様に重ねて御礼申し上げます。

5. 別紙資料

- (1) 2019年度稲峰祭収支計算書
- (2) 2019年度稲峰祭収支概要
- (3) 2019年度稲峰祭領収書写し
- (4) 会場案内パンフレット
- (5) 機械工学科・電気電子工学科 告知ポスター

以上